

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part II

Japanese Studies

Friday 1 June 2012 13.30 – 16.30

J.11 MODERN JAPANESE 3

*Answer **all** questions*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Answer Book.*

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

Five pages of genkō yōshi (Japanese writing paper)

**You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you may
do so by the Invigilator.**

1 Translate the following passage into **Japanese** (*kanji* and *kana*): [30 marks]

Though Conrad always came down to breakfast at exactly nine o'clock, he was a slow and reluctant starter. In his middle and late years, he usually spent the mornings reading the newspapers and answering letters. But he often worked from half past eight in the evening until two or three in the morning and finished many novels, after a long spurt of work, in the middle of the night.

He could not face the anguished prospect of writing a long novel over a period of years. So he conceived works like *Lord Jim* as stories and claimed he was nearly finished when he still had a long way to go. When composing, he tried to visualize the movement of successive scenes. He would absorb himself in prolonged meditation about his novel until his characters and plot could be grasped, and were ready to flow through his pen and onto the paper. His ambition, as he explained in his Preface to *The Nigger of the "Narcissus"*, was to re-create and intensify reality and 'by the power of the written word to make you hear, to make you feel – it is, before all, to make you see.'

A slow and painstaking writer, Conrad felt utterly exhausted after completing three hundred words – a page and a half of his script – which was his average daily achievement.

Lord Jim ロード・ジム

Preface 序文

The Nigger of the "Narcissus" ナーシサス号の黒人

JEFFREY MEYERS, *Joseph Conrad*, 2001, pp. 169 – 170.

2 Summarise the following unseen passage in **Japanese** (about **one** sheet of *genkō yōshi*).
[35 marks]

改正臓器移植法が本格施行されて、まもなく1年。脳死の子どもからの臓器提供が法的に可能になった。しかし、我が子の「死」という現実には家族の思いは揺れ、臓器提供に結びついていなかった。一方、18歳以上からの提供は急増した。

「臓器提供は大事、でも・・・」

「全力を尽くしましたがお嬢さんは脳死になりました。もう助かりません」

1月中旬、静岡県立こども病院の植田育也・小児集中治療センター長は急性脳症で搬送された2歳の女児の両親にこう告げ、治療の継続や臓器提供の選択肢があることを説明した。

両親は一晩考えた末、「臓器提供が大事なことはよくわかります。でも、臓器提供のために、この子とお別れする時期が1分でも早く来てしまうのは耐えられない」と話したという。

両親は、集中治療をやめ、それまで面会が制限されていた女児の兄姉も一緒に家族全員で残された時間を過ごすことを希望した。

1月下旬、家族は可動式ベッドに女児を寝かせ、病院の屋上へ行った。女児と一緒にベッドに乗った兄姉は空にシャボン玉を飛ばした。翌日、父親の腕の中で女児の心臓は止まった。

関東地方の病院は昨夏、脳内出血を起こした男の乳児の親に、臓器提供の機会について説明。だが、最終的に親は「これ以上、体を切るのはかわいそう」と提供に同意しなかった。

日本小児救急医学会理事長の市川光太郎・北九州市立八幡病院長は「乳幼児の親の多くは『この子に何もしてやれなかった』と自分を責め、我が子をこれ以上傷つけないと、病理解剖ですら断る」と話す。

虐待がないかの確認に苦慮する病院も少なくない。

関東地方の病院は、脳死とみられる10代の子ども2人を診療。家庭内の事故で家族以外に目撃者がいなかった。厚生労働省のマニュアルでは、虐待の確認に「特に慎重な判断が必要」なケースだ。病院は虐待が否定できないとして、臓器提供の機会があることを親に説明しなかったという。

中部地方の病院では、臓器提供の検討で虐待の疑いがないか、児童相談所に2回照会したが、回答を拒否されたという。厚労省研究班の虐待対応マニュアルでは児相との連携を求めているが、実際には個人情報の保護を理由に情報を出さない児相が少なくない。東京都など一部の自治体は、臓器提供の場合は例外扱いする仕組みを作っている。

question continues....

(TURN OVER)

対応できる病院、整備急務

今回の取材では、脳死とみられる子どもを診たが「臓器提供を申し出られても、対応できなかった」とする施設が3件あった。ある小児病院では昨夏、親から申し出があったが、院内で臓器提供の手順の確認などができておらず、手続きを見送った。法的に可能になった小児の臓器提供に、現場が追いついていなかった。現状では施設側の事情で、家族の善意がいかせない可能性もあるということだ。

子どもの臓器提供に対応できる病院に限られる一因として、そもそも重症の小児を診る小児救急や小児集中治療のできる病院が少ないことをあげる専門医もいる。

「本来、虐待の見極めや脳死判定は、臓器提供とは関係なく、子どもを守り、治療方針を決めるために欠かせないのに、それができる施設が日本では少ない」と静岡県立こども病院の植田育也・小児集中治療センター長は言う。小児救急医療を充実させるため、診療報酬の改定や全国に約8カ所の拠点を整備する厚生労働省の取り組みがようやく始まった。この流れを加速すべきだ。

一方で、18歳以上の提供の増加は新たな課題を生んでいる。アンケートで、脳死での臓器提供を経験した35施設のうち30施設が「通常の診療や手術への影響」を課題と答えた。ある医師は「スタッフの肉体的、精神的疲労を思うと、1年に何例も対応できない」と漏らす。

移植医療が根付くには、提供を決めた遺族へのケアも欠かせない。しかし、遺族ケアを担う日本臓器移植ネットワークのコーディネーターは全国で約30人。ケアが十分なのか、検証が必要だ。各地の自治体の移植コーディネーターの中には、遺族ケアの経験が豊富なベテランも少なくない。が、多くは1年契約で待遇は不安定だ。

Asahi Shinbun, 1 July 2011, p.3

3 Write an article for a newsletter in **Japanese** (**one and a half** sheets of *genkō yōshi*) following the instructions below: [35 marks]

During the last Christmas vacation, some student volunteers including yourself undertook a telephone fundraising campaign focusing on three key areas of College life: Students, Research and Teaching.

As campaign leader, you are asked to produce an article for the college newsletter distributed to the alumni/alumnae to report how the campaign went, thank those who made donations and make a fresh appeal for more contributions.

END OF PAPER